

アリジゴク

アリジゴク、ありじごく、蟻地獄。怖い名前ですね。

お寺や、神社の雨のかからない縁の下のさらさらした砂に、小さなすり鉢状の穴が見つかることがあります。昔はよくあったものですが、最近はなかなか見られなくなりました。それでも、郊外の神社などではまだ見つかります。

穴の大きさは、小さなもので直径2cmほど、大きなものでは5cmほどです。

このすり鉢状の砂の穴にアリが落ち込むと、細かな砂に足をとられ、はい上がれず底に落ち込みます。底には、体長1cmほどの一匹の虫が隠れていて、落ちてきたアリを大きなアゴで捕まえ体液を吸ってしまいます。

砂のすり鉢を作ったのが、底に隠れている虫で、この虫を「アリジゴク」と呼んでいます。

アリジゴクは、ウスバカゲロウというトンボに似た昆虫の幼虫です。

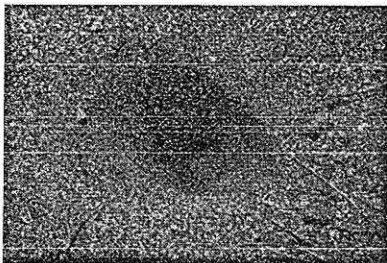
アリジゴクのエサとなるのは、アリばかりではありません。地面をはい回るいろんな小形の昆虫が落ち込んで捕まってしまうますが、その多くがアリなので、アリジゴクなのです。

アリジゴクが成虫になるのには長い時間かかり、ふつう2年、エサが少なくいと4年もかかるようです。

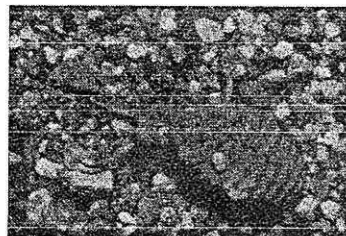
アリジゴクは、どうやってすり鉢を作るのでしょうか？

砂に放してやると、後ずさりをして（アリジゴクは前には進めません。）、円を描きながらもぐっていきます。円を描きながら時々砂を円の外に向かってはねとばし、だんだんと円の中心に向かい、中心から外に砂をはねとばし深いすり鉢を作ります。

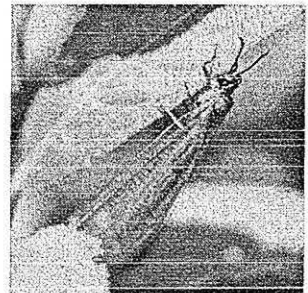
これは、アリジゴクを捕まえてきて、入れ物に砂を入れた中に放してやると、簡単に観察できます。観察してみませんか。



アリジゴクのすり鉢状の巣



アリジゴク



ウスバカゲロウ
(根来 尚)